

### 最近当院で経験した高齢者門脈ガス血症の5症例

瀧井 道明<sup>1)</sup>、中畑 孔克<sup>1)</sup>、三田真理子<sup>1)</sup>、木股 宏恵<sup>1)</sup>、野木 信平<sup>1)</sup>、  
鈴木 秀治<sup>1)</sup>、槇野 茂樹<sup>1)</sup>、木村 文治<sup>1)</sup>、石井 正嗣<sup>2)</sup>、西原賢太郎<sup>3)</sup>、  
南 幸一郎<sup>4)</sup>、寒川 光治<sup>5)</sup>、芥川 寛<sup>6)</sup>  
(大阪医科大学三島南病院 内科<sup>1)</sup>、外科<sup>2)</sup>、脳神経外科<sup>3)</sup>、泌尿器科<sup>4)</sup>、  
放射線科<sup>5)</sup>、大阪医科大学病理学教室<sup>6)</sup>)

---

【はじめに】門脈ガス血症は CT で肝内門脈末梢側に樹枝状のガス像を呈する稀な病態で、腸管壊死などの重篤な腹腔内疾患に認められることが多いとされてきた。

【症例 1】75 歳男性。急に腹痛が出現して救急搬送された。腹壁は板状硬。CT で大量の腸管内ガスと門脈ガス血症、腸管気腫が認められ、保存的治療を行ったが数時間後に死亡された。

【症例 2】85 歳男性。入院中に突然の意識消失をきたして急変した。腹壁は板状硬。CT で大量の腸管内ガスと門脈ガス血症、下大静脈、大動脈にもガス像が認められ、保存的治療を行ったが半日後に死亡された。病理解剖で血管内ガス血症や十二指腸嚢腫様気腫症が認められた。

【症例 3】97 歳女性。急な意識消失により救急搬送された。JCS300 で near DOA。CT で大量の腸管内ガスと門脈ガス血症が認められ、直後に呼吸停止、約半時間後に死亡された。

【症例 4】79 歳男性。入院中に急に下血が出現した。下腹部に圧痛は認められたが、腹膜刺激徴候は認められなかった。CT で門脈ガス血症が認められた。保存的治療により 2 週間後にガス像は消失したが、肺炎を併発し、抗菌薬投与などの治療を行ったが約 3 ヶ月後に死亡された。

【症例 5】83 歳女性。入院中に急に腹痛が出現して急変した。腹壁は板状硬。CT で大量の腸管内ガスと門脈ガス血症、腸管気腫が認められ、保存的治療を行ったが数時間後に死亡された。

【まとめ】門脈ガス血症は腸管粘膜の損傷と腸管内圧の上昇に起因するとされ、腸管壊死を伴う例では死亡率は高い。症例 1, 2 は胃癌で幽門側胃切除術、症例 5 は S 状結腸軸捻転で S 状結腸切除術の既往があった。高齢者では認知症、慢性便秘症などの併存疾患が多く、消化管術後の既往があり、腹膜刺激徴候（触診で腹壁の板状硬）が認められるような場合には急死に至ることがある。急速に高齢化社会の進行する昨今、潜在症例も多いと思われ、示唆に富む症例であったので報告する。

---